



笛資料館前の「義平とおみつの像」

「皆さんは源義平とおみつの恋伝説をご存じですか？」

平安時代末期、平治の乱に敗れ、源義平が朝日の里に落ち延びてきた。そして身の回りの世話をしていた、村長の娘、おみつ。と恋に落ち、やがて、おみつは子どもを授かった。

再起をあきらめ、里での平穏な暮らしを望み始めたが、父の計報を耳にして上洛（京都に上ること）を決意。その時、「男子が生まれたら京へ上らせわが志を継がせ、女子が生まれたら母娘ともに笛を吹きながら、自分をしのんでくれるように」と、自分の形見として「青葉の笛」を託したとされる伝説です。

# 「青葉の笛」ものがたり

「青葉の笛」は、鹿児島県台明寺にある笛を作る専用の竹である「青葉の笛竹」から作ったものであるといわれ、現在、全国で八管存在しています。このうち平敦盛ゆかりの笛が四管、源氏の武将ゆかりの笛が二管、これ以外に二管あるそうです。

平安時代、笛を所有していたのは平家や源氏などの高貴な武士層でした。このうちの二管、義平ゆかりの笛が、和泉地区の朝日家に残っています。この笛は現存する「青葉の笛」では日本最古と言われている。

「青葉の笛」について詳しく知りたいと思い、情報を集めていたら「青葉の笛保存顕彰会」というグループがあることを知りました。保存顕彰会や青葉の笛のことなどを会長の古里廣芳さんにお聞きしました。

「青葉の笛を後世に守り伝えていこうと、平成元年ごろに結成しました。現在、大人や子どもを合わせて二十六名が所属しています。会では、笛づくり教室、演奏活動、笛にまつわるイベント開催の三つを柱として活動を行っています。週二回、和泉公民館で練習をしています。また、昨年九月には、十六回目になる



キャラクターデザイン  
坂本裕子さん（雷塚）

## てくてく レポート

19

～リポーターが  
お伺いします～



リポーター

島崎 みゆきさん

(21歳 木本)

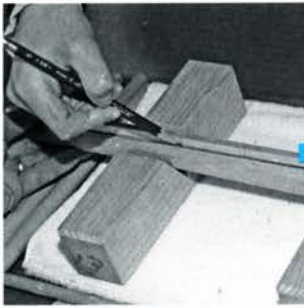
JR九頭竜湖駅周辺を歩いたら、偶然発見した「笛資料館」。静かで落ち着いた雰囲気は、まるで時代をさかのぼったような、平安時代の情景が目に見えそうです。そこで「青葉の笛」に興味を持ち取材しました。

### 保存顕彰会に出会う



# 笛づくりに挑戦

実際に笛資料館で笛づくり体験をしました。朝日順子さんに、笛の作り方や吹き方を指導してもらいました。



1. 最初に笛の中央に鉛筆でまっすぐ線を引き、穴の位置にしるしをつけていきます。



2. 次にきりでしるしをつけたところに穴をあけていきます。  
☆ポイント☆ 上から下に押すような感じでまわすとあけやすい。



3. 穴をあけたら、ナイフで穴を寸法に合わせて大きくしていきます。刃の先を使うことと、刃の向きが大切です。紙やすりをまいた棒で内側もきれいにします。



4. 最後に和紙を丸めて入れ、“みつろう”をつけて完成です。和紙をつけて音の調律をするそうです。  
※みつろう・みつバチの巣から作ったろうのこと。



## 【笛資料館】

所在地 大野市朝日24-9  
開館日 4月～11月(月曜日休館)  
時間 午前9時～午後4時30分  
入館料 300円(笛づくり体験は3000円(要予約))  
問い合わせ先 笛資料館(☎0779・78・2041)



完成したら朝日さんに、吹き方や楽譜の読み方などを丁寧に教えてもらいました。音を出すのに苦労しましたが、最初の音が出た時はとても嬉しかったです。時間は笛作りと吹き方の練習で、大体3時間くらいかかりました。全国的にも珍しい、数多くの笛が展示されている「笛資料館」に是非みなさんも足を運んでみてください。朝日さんがいる時は、お願いしたらすぐきな笛の演奏を聴くことができるかも♪

## 笛を吹きながら

「フォーラム青葉の笛」を開催し、プロの笛師を招いての演奏会や、全国のアマチュアの方の発表会を行いました。このような活動を通して、若い世代の人たちに歴史や文化が伝承されることを願っています。練習に励む会員の藤田悠菜さんは「息の吹きかけ方や指の使い方が難しいけれど、曲を演奏した後には達成感を味わえるので楽しいです」と話してくれました。

笛づくりを指導して下さった朝日さんに「作った笛に一日五分でいいから息を入れてあげてね」と言われて、私も毎日吹いています。「吹く人によって音色は変わる」と言っていたことを思い出しながら、日々自分の音を探し求めて練習中です。  
子どもたちの指導・育成にあたる古川清澄さんは、「伝説によると男だったら刀を、女だったら笛をと言っていて、残っていたが、義平にとってどちらも大事なものであった。相当強い思いがあったのでは



練習風景

ないか。当時武士が笛を吹いていたのは、戦の前日や勝利した時、舞を踊る時などだった。笛を吹くということは、命を吹き込む、魂を吹き込むといったものにつながりがあるのではないかと話してくれました。

義平やおみつはどんなことを思い、笛を吹いていたのだろう。はるか昔に思いをはせ、笛を吹きながら空想にふける毎日です。

※源義平：源義朝の長男で頼朝や義経の兄にあたる。通称「悪源太」と呼ばれた平安時代末期の武将。



# 市民のページ

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は  
情報広報課まで ☎0779・66・1111



「ゆきんこツアー」の最終日、参加者全員で記念撮影（2月11日）

## 「芸術文化」根付かせよう

芸術を通して、日常生活を楽しくしたいと活動しているのが「WAOプロジェクト」です。平成十三年から活動してきた「大野アートウエーブ実行委員会」のメンバーが、市民参加を促しながら活動してきたと昨年四月に改称。Wには「私たち、世界に向けて」、Aには「アート、アーティスト、新しい」、Oには「大野」の意味が込められているそうです。

市から委託を受けて実施した地域アート創造事業では過去に招へいた作家の協力を得てイベントに参加したり、美術系大学のゼミ合宿を誘致したりしながら、多くの市民が芸術文化に触れることができる機会を提供しました。

二月には、神戸芸術工科大学の学生らで組織する「ドーム研究会」のメンバー十人を招き、地元の小学生と一緒に「ゆきんこツアー」を実施しました。これは、ダンボールなどで作った「家」を市内の名所に持ち込んで、家の中から見る景色や家のある空間を楽しむ、大野の魅力を再発見してもらう企画です。参加した児童からは「家を作るのは難しかったけど、同年代の子と一緒に旅に出て楽しかった。研究会のメンバーからは「最初は不安がいっぱいだったけど、一生涯命取り組む姿を見て勇気付けられた」などと感想が聞かれました。

委員長の伊藤修二さんは「参加した子どもたちは芸術に触れたとは思っていないかもしれませんが、楽しかったことは覚えています。小さいころから芸術に触れることで、距離をおかずに接することができると思うので、大野だからこそ生まれた作品などを生かし、芸術に触れる機会を増やしていきたいですね」と話してくれました。

### 【広告欄】

**ヤマハ音楽教室**  
YAMAHA  
♪生徒募集中♪  
春の無料体験教室実施中!!  
お問い合わせは  
あしはら楽器  
65-6888



各種損害保険・各種生命保険  
事故相談・各種保険診断  
**グランド保険株式会社**  
〒912-0021 大野市中野町2丁目2番16号  
☎050-3386-3952 ☎(0779)65-6601  
☎(0779)65-6657 ✉info@grandboken.com  
〈取扱保険会社〉 損害保険ジャパン アリコジャパン Afac  
損保ジャパンひまわり生命 第一生命

**無料レポートプレゼント!**  
「家づくりで損をしない方法」 限定10名様!!  
定価1,000円 A5版73頁 本屋さんでは売っていません!  
お申込は⇒TEL0120-48-0618  
**(有) 羽生建築工業**  
大野市中野 16-20  
もっと詳しく知りたい方は⇒  
フィットホーム 検索



**藤田 鈴菜**さん（有終西小3年）

藤田さんは昨年、郵便事業株式会社が募集した「第40回手紙作文コンクール」で最高賞となる文部科学大臣賞を受賞しました。タイトル「しかってくれて、ありがとう」に込められた思いなどを聞きました。

——応募したきっかけは

いくつかの作文コンクールの課題があって、その中から選んで、夏休みの宿題として出すように先生に言われました。手紙作文は



書きやすいと思い応募しました。

——受賞の知らせは誰から聞きましたか  
学校で校長先生に呼び止められて、「日本一の賞だよ、おめでとう」と声をかけてもらいました。家に帰って家族みんなが喜んでくれたので、うれしかったです。

——学校で紹介されたそうですね

3月の全校集会で校長先生から賞状をもらいました。書写でも特選に選ばれ、賞状を2枚もらったので、友達から「すごいね」と言ってもらいました。

——作品の出来事はいつごろの話ですか

1学期の終わりごろ、友達とお馬屋池に遊びに行った時のことです。ゴミ袋を持っていたのに、ゴミを池に捨ててしまいました。その時にしかってくれたおばさんがいて、すぐあやまることができず、どうしようかと思っていました。お母さんの勧めもあって、おばさんあてに手紙を書こうと思いました。この機会にぜひ読んでもらいたいですし、ありがとうございました。

手紙作文コンクールで最高賞  
「しかってくれて、ありがとう」

わたしがじんじやのいけにゴミをすてた時、しかってくれたおばさんへ、とどかないかもしれないけど、お手紙を書きます。ゴミをすてて、ごめんなさい。しかってくれて、ありがとう。  
（中略）「まっ、いいか。」と思ってすてちゃった。すててから、「あーあ、ゴミぶくろあるのに、すてちゃった。」と思って、いやな気持ちになったよ。そしたら、おばさんに「こらっ、みんなのいけやですてたらダメ、ひろいなさい。」って言われて、ドキッとしたよ。すぐにひろってゴミぶくろに入れたけど、わるいことしたと思って、シヨックで、もうあそんでいられなかったから、うちにかえったよ。うちでお友だちとあそんでいても、こころがズキンズキンして楽しくなかった。お友だちがかえってからは、おかあさんにわけを話してないたよ。なみだがいっぱい出てきて、すぐくつらかったよ。（中略）  
わたし、今どからは、じ分のすてたゴミじゃなくても、ひろえる子になるよ。（中略）おばさんがしかってくれたおかげで、わたしがじ分のこころにすてたゴミもひろえてスッキリしたよ。わたし、もうぜったいに、じ分のこころにゴミはすてないね。おばさん、ありがとう。  
※同社ホームページより抜粋し掲載。

【広告欄】

**広告募集中**

（1カ月1枠1万円）

問い合わせ先  
情報広報課広報広聴係  
☎66・1111内線441

広 告

**こりとり処**

ソフト整体  
15分1,500円～80分6,500円  
足つぼマッサージ  
15分1,500円～60分4,800円

あったかデー（6・16・26日）  
30分2,800円を2,000円で

\* こりとり処のみ利用可能  
\* 電話予約も承っております  
電話0779(66)7900



## 市街地のにぎわい再生へ

当市では、まちづくり三法を活用した中心市街地の活性化に取り組んでいます。その取り組みに対する報告会が2月23日、有終会館で開かれました。市民約100人が参加し、市街地のにぎわい再生に向けて、行政と住民、関係者が一体となって取り組んでいく必要性を再認識しました。

## 熱戦ドッジボール

第16回大野市スーパードッジボール大会が2月17日、エキサイト広場で開かれました。5・6年男子の部に16チーム、全学年混成の部に18チームが参加。観客席からの保護者の声援を受けて、熱戦を繰り広げました。



## 県産材パズルに園児はしゃぐ

県産木材の活用を推進している県奥越農林総合事務所から、市内の全保育園と幼稚園にスギで作ったパズルが贈られました。あかね保育園では、木材独特のにおいや感触を楽しみながら遊ぶ園児の姿が見られました。

## 岩崎先生 大臣表彰受ける

3月4日、陽明中学校に勤務する岩崎信浩先生が文部科学大臣優秀教員表彰を受賞し、市長を表敬訪問しました。この表彰は文部科学省が昨年度新設したもので、県内では8人の教員が選ばれました。





## 「いわさきちひろの絵」語る

第5回越前大野感性はがき展の表彰式が3月8日、有終会館で開かれました。その後、同展の審査員を務める安曇野ちひろ美術館館長の松本猛氏と女優の真野響子氏が、「いわさきちひろの絵の世界」をテーマに対談。会場を訪れた約250人を前に、子どもを生涯にわたり描き続けた画家いわさきちひろの絵の魅力を語りました。

## 響く「春の調べ」

当市在住のバイオリニスト松谷由美さんと京都市交響楽団の団員などによる「第8回奥越前に春をよぶ音楽会」が2月29日、文化会館で開かれました。入場した約350人は、シューベルトのピアノ五重奏曲イ長調「ます」など優雅な演奏の数々に、聞き入っていました。



## 楽しんで“食育”

楽しみながら食育を体験してもらおうイベントが3月8日・9日の両日、ショッピングモールヴィオで開かれました。食生活相談や市内各種団体による活動パネルの展示のほか、昔ながらのお菓子「ゆきんこ豆」を運ぶゲームに大勢の市民が参加していました。

## 体に合った食事とろう

食生活改善推進員連絡協議会による「健康ランチバイキング」が2月24日、保健センターで開かれました。参加した市民50人は、自分の体に合った食事の摂取方法などを考えながら、おかずや果物を選んでいました。





# 笑顔！で「いただきます」⑬

## ビーフンサラダ



### 材料（一人分）

※分量は給食献立に基づき表示

- ・ビーフン 8g
- ・キャベツ 40g
- ・キュウリ 20g
- ・ハム 10g
- ・ニンジン 5g
- ・コーン 5g
- ・アーモンド 5g
- ・調味料（しょうゆ5g、酢4g、砂糖1g、ごま油1g、塩0.1g）

子どもたちの健康を支えている給食献立。今月は「ビーフンサラダ」です。

## 給食から一品



### 作ってみよう

【まず】

キャベツ、ニンジン、キュウリは細い千切りにし、キャベツとニンジンはゆでて冷ましておく。ハムは蒸して冷ましておく。

- ①ビーフンをゆでて冷水に浸し、適当な長さに切る。
- ②調味料を混ぜて、ドレッシングを作る。
- ③冷ましておいた材料に、ビーフン、コーン、アーモンドを混ぜ、②を加えてあえる。

### 達人のワンポイントアドバイス

簡単にでき、子どもたちに人気のあるメニューです。野菜は歯ごたえを残すため、ゆですぎないようにしましょう。ナンプラーやレモン汁を加えて食べてもおいしいですよ。（学校調理師 米津朱美さん）



## 市民のうごき

平成20年3月1日現在

世帯数	12,248世帯（8世帯）
人口	38,709人（-32人）
（男）	18,464人（-25人）
（女）	20,245人（-7人）

### ◆2月中の内訳

転入	66人	出生	16人
転出	64人	死亡	50人



たがしよたの解決の糸口が見てくれたような気がしました（林）

十二ページの「くるーぷ登場」で触れたツアーの取材で、三角形のダンボール四枚を組み合わせてできる空間を持ち運ぶ子どもたちの姿に、市民や観光客から逆取材を受けました。子どもたちは、自分だけの「家」から見える景色を楽しみ、大野の魅力を再発見したはず。とっつきにくい印象もある芸術文化をいかに根付かせるのか。今回の取材で、その解決の糸口が見てくれたような気がしました（林）

## 編集後記



輸入中国製品の農業混入・中毒やブランド商品の偽装など一連の事件は予臭が漂う中、食品への不信感が深まるばかり。でも確かに春日遅々として、

である▼食の安全・安心への信頼は死活的命、題で喫緊を要する。利益優先の虚偽や悪事は刑罰に排除が当然。供給・経営側は良心的な提供と販売を、一方で消費者も安価や簡便、多種多量などにとられない賢さで対処へ▼対策はいろいろ。低い自給率解消から産地消まで。とすれば、地方の時代に、選択肢として自治体が都会地で地元産物の販路展開をするのも、その現象のひとつか▼首都圏で自治体アンテナショップが人気、関心が高い。産地の良質特有産品の直売は、郷里PRも兼ね沈滞低迷にあえぐ地方回生が懸かる。無論食の安全と安定化につながる▼当市もアンテナショップ初開設したので、ご存じだろう。東京・板橋区の大山商店街で本年度から常時、大野物産を販売する。併せて観光客誘致や交流、イベントなど情報・郷土PRの拠点となす▼周辺地域には県人や市出身者も比較的多いと聞く。繁盛を期待したい。ただ、売らんかなに偏るだけでなく、心の通った受発信と信用がセールスポイントとなる。偉人の渋沢栄一は「金もうけにも品位を」と（武藤）